

埼玉県立川の博物館周辺の哺乳類相

藤田宏之・石井克彦(川の博物館)

はじめに

埼玉県立川の博物館(以下川の博物館)は、大里郡寄居町小園の埼玉県を代表する河川である荒川を望む最低位の河岸段丘上に立地している。荒川右岸のこの段丘は、下耕地面と呼ばれ、北側を流れる荒川に向かってなだらかに傾斜している。また、敷地中央部を砂防河川である宮川が南北に貫通し、東側に塩沢川が隣接している。

川の博物館周辺における生物相に関する調査は、寺尾(2005)による植物相に引き続き、藤田・石井(2010)による両生類相、藤田・石井(2011)による爬虫類相が報告されている。

調査の目的

教育普及事業等の教材に活用できること、地域の自然に目を向けるなどの目的から、2008年3月より動物相の調査をおこなってきた。今回は2008年3月より2012年3月まで記録された哺乳類について報告する。

調査の方法

調査エリアは川の博物館敷地内および周辺域で、河川、河原、道路、斜面林を含んでいる。

筆者の観察・目撃記録に加え、センサーカメラによる定点調査をおこなった。また、埼玉県アライグマ防除指針に基づいたかごわなを2011年4月より1箇所仕掛けた。さらに、寄居町生活環境課、川の博物館職員、川の博物館ボランティアなどによる情報収集の記録も加えた。また、コウモリ類については、大沢夕志氏、大沢啓子氏による調査協力・助言もいただいた。なお、本報告においてはペット動物であるイヌおよびネコの記録は、飼育個体か野生化した個体かの判別が不可能なため参考記録とした。

結果

観察・目撃による確認地点は図1に種ごと

に記した。確認地点の周辺環境は表1に記した。N地点に設置したセンサーカメラで記録された種および撮影回数は表2に記した。アライグマ防除のかごわなはアライグマ7個体、ハクビシン1個体が捕獲された。結果17種確認され、トガリネズミ目2種、翼手目2種、ウサギ目1種、齧歯目5種、食肉目7種である。次に各種について述べる。

ジネズミ *Crocidura dsinezumi*

D地点の大水車のスロープとこんにやく水車付近で死骸を確認。発見された地点はコンクリないしはタイルであるが、ヤブや低木林などに生息する(阿部,1994)種であることから、敷地と隣接する南側の斜面林から迷い込んだ可能性が高い。

アズマモグラ *Mogera imaizumii* (写真1)

B地点の本館南側のアスファルト通路およびL地点の東武東上線沿いのアスファルト公道上で死骸を確認。敷地内ではモグラの仲間が掘った跡が多数発見されていることから、普通に生息していると考えられる。

アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (写真2)

A地点の本館2階のコンクリート壁の隙間、C地点の本館東側業務用駐車場付近、E地点のウォーターアスレチック施設の偽岩で確認。敷地内を飛行しているのを多数確認していることから、A地点はねぐらとして利用していると推定される。

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis*

A地点の本館最上部のエレベーター棟、本館2階のコンクリート壁の隙間で確認。本種に関しては大沢ほか(2012)によって越冬事例として詳細に報告されている。

ノウサギ *Lepus brachyurus* (写真3)

F地点の芝生広場で多数の糞、H地点のススキ原で糞、J地点の公道上から斜面林にかけて成体、M地点の植え込みで幼体、

N地点のセンサーカメラで成体を確認。

センサーカメラによる記録だけでなく、目撃も多く、普通に生息していると考えられる。また、幼体も確認していることから、周辺で繁殖もおこなわれていると考えられる。

ハタネズミ *Microtus montebelli* (写真4)

B地点の本館南側の通路上で夜間移動しているのを確認。本種はスミスネズミ (*Eothenomys smithii*) によく似ているが、斎藤(1981)の調査によると、寄居町内の山地・山間地でスミスネズミが確認されているが、平地・丘陵地では確認されず、ハタネズミのみが確認されている。川の博物館周辺は山麓とは接していない河岸段丘や狭い面積の斜面林であり、環境的な面から本種とした。

カヤネズミ *Micromys minutus*

H地点のススキ原で本種の球状の巣を確認。阿部(1994)によると、イネ科の植物が密生し水気のあるところに多いとあり、H地点付近は本種の生息に適していると考えられる。

アカネズミ *Apodemus speciosus*

G地点の竹林で成体の死骸を確認。また、本種の食痕と考えられるオニグルミの実も確認されている。斎藤(1981)の調査によると本種の優先度は荒川右岸丘陵地で49.1%、荒川右岸平地で64.7%とあり、川の博物館周辺では普通に生息していると考えられる。

ドブネズミ *Rattus norvegicus*

A地点の本館前の人工池で成体の死骸を確認。川の博物館周辺は自然環境とヒトの生活環境が混在し、本種の生息に適している場所も多数存在しているため、普通に生息していると考えられる。

クマネズミ *Rattus rattus*

A地点の本館北東の別室である魚類展示施設のバックヤードで成体が捕獲された。上記ドブネズミで述べた通り、本種の生息に適している場所も多数存在しているため、

普通に生息していると考えられる。

キツネ *Vulpes vulpes japonica*

I地点の荒川河川敷で成体を目撃し、N地点のセンサーカメラでも撮影された。川の博物館周辺の河川敷は巣穴に利用できるヤブの斜面が存在し、繁殖に利用している可能性がある。

タヌキ *Nyctereutes procyonoides* (写真5)

B地点の本館南側通路とC地点の本館東側業務用駐車場付近で幼体、N地点のセンサーカメラで成体、亜成体、幼体が確認された。センサーカメラの調査では最も多く確認され、普通に生息していると考えられる。

ニホンテン *Martes melampus* (写真6)

N地点のセンサーカメラで成体を確認された。森林に生息している種であるが、寄居町内でも住宅地の桜沢地区で捕獲された記録もあり(清水, 1981)、餌の少ない時期に行動範囲を広げ、今回の記録になったと考えられる。

ニホンイタチ *Mustela itatsi* (写真7)

A地点の本館東側スロープで糞、C地点の本館東側業務用駐車場で糞、D地点の橋の欄干で糞、E地点のウォーターアスレチック施設で成体、F地点の芝生広場の植え込み付近で成体、K地点の本館南東側職員駐車場で成体、N地点のセンサーカメラで成体を確認され、普通に生息していると考えられる。

ニホンアナグマ *Meles meles anakuma*

K地点の寺院付近に寄居町役場が仕掛けたアライグマ防除用のわな(かごわな)に成体がかかった。近隣での目撃情報もあるが、確実な記録は上記1例のみと少ない。

アライグマ *Procyon lotor* (写真8)

B地点のムクノキの幹に爪痕、H地点の駐車場で足跡、J地点の本館南側の公道上で成体、K地点の本館南東側職員駐車場付近で成体、N地点のセンサーカメラで成体を確認された。また、アライグマ防除のか

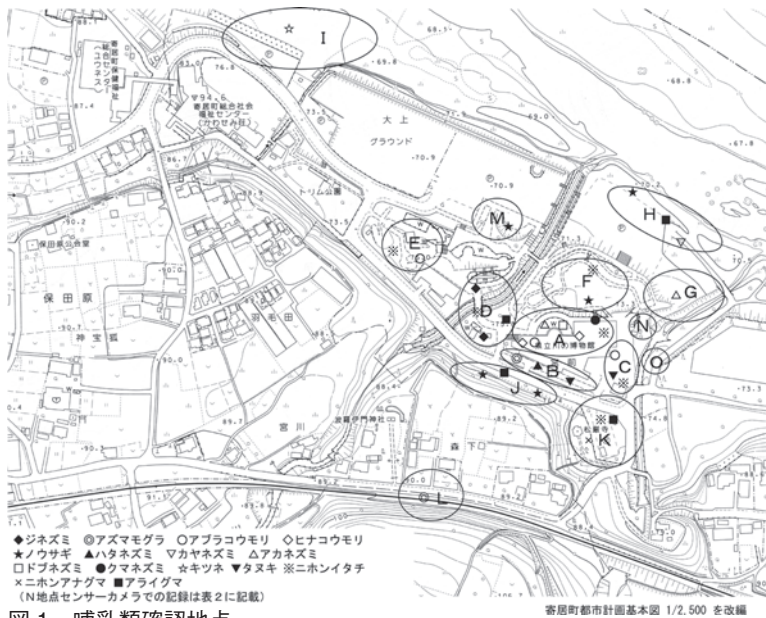


図1 哺乳類確認地点

表1 各地点環境の特徴

地点	環境の特徴
A	本館建屋と隣接のコンクリート製人口池。
B	本館南側通路口周辺の通路付近。
C	本館南東側業務用駐車場付近。
D	敷地内を流れる宮川を挟んで大水車と水車小屋付近。
E	ウォーターアスレチック施設の「あらかわくわくランド」付近。
F	芝生が広がる「ファミリー広場」付近。
G	敷地に隣接して流れる堀沢川沿いの竹林。
H	第3駐車場北のススキ原。
I	通称「かわせみ河原」と呼ばれる荒川の河原。ごろごろした石が多い。
J	本館南側の公道と斜面林付近。
K	本館南東側の職員場と隣接する竹林付近。
L	東武鉄道東上線沿いの公道上付近。
M	「砂の広場」付近のシャリンバイの植え込み。
N	センサーカメラを設置した地点。壁を背にして日当たりの悪い埋め込み式FRP製人工池の前。
O	アライグマ防除のかごを配置した地点。堀沢川沿いの楠林帯。

表2 センサーカメラで撮影された種と記録数

種	回数	備考
ノウサギ	8	
キツネ	1	
タヌキ	65	うち疥癬症発症個体は12回
ニホンテン	2	
ニホンイタチ	8	
アライグマ	7	
ハクビシン	14	
イヌ	4	参考記録
ネコ	17	参考記録

注:個体識別はせず、同一個体が複数回撮影された可能性もある



写真1 アズマモグラ



写真2 アブラコウモリ



写真3 ノウサギ



写真4 ハタネズミ



写真5 タヌキ



写真6 ニホンテン



写真7 ニホンイタチ

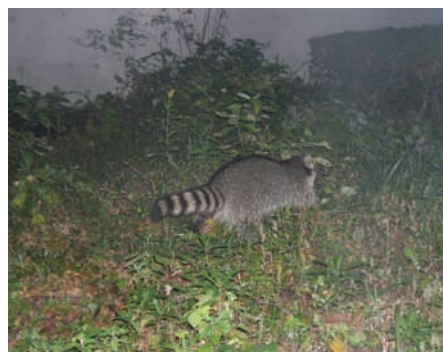


写真8 アライグマ

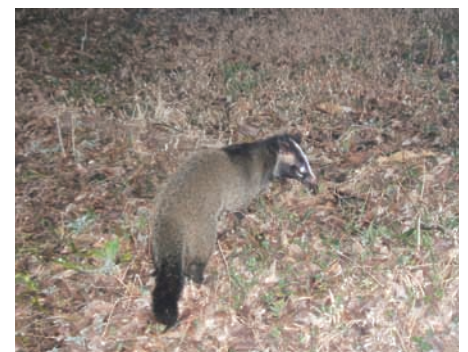


写真9 ハクビシン

ごわなには成体 5 個体、亜成体 2 個体が捕獲された。近年急速に勢力を伸ばし、普通に生息していると考えられる。

ハクビシン *Paguma larvata* (写真 9)

N 地点のセンサーカメラで成体が確認された。アライグマ防除のかごわなに亜成体 1 個体が捕獲された。センサーカメラでの調査ではタヌキに次ぐ記録数で、普通に生息していると考えられる。

考 察

埼玉県内では 57 種(外来種 3 種を含む)の哺乳類が生息している(埼玉県, 2008)が、中型・小型の 17 種が本調査で確認された。うち、『埼玉県レッドデータブック 2008』(埼玉県, 2008)で希少な種として記載されているのが 10 種(ジネズミ、ヒナコウモリ、ノウサギ、アカネズミ、カヤネズミ、タヌキ、キツネ、テン、ニホンイタチ、ニホンアナグマ)である。

絶滅危惧 類に分類されているヒナコウモリは敷地内で越冬が確認され(大沢ほか, 2012) 今回は確認されなかったが、絶滅危惧 類に分類されているヤマコウモリについても生息の可能性はある。

ノウサギについては、成体の目撃例や糞の発見に加え、幼体も目撃されていることから、敷地内で繁殖している可能性が高い。しかし、カラス、キツネなど外来動物の天敵に加え、ネコなどペット起源の天敵も多く、繁殖に良好な環境とはいえない。

ペット動物の野生化は在来種の繁殖にだけでなく、餌や生息地の競合など様々な影響が考えられる。特に、近年急激に増加した特定外来種アライグマは、在来種の影響だけでなく、農業被害や建造物の侵入など生活環境被害も発生している。防除の取り組みと啓発活動は今後も必要と考える。

センサーカメラ調査で最も多く記録されたのはタヌキであるが、写真 5 にあるようにヒゼンダニ寄生による疥癬症を発症していると考えられる個体が 12 回記録された。2 個体同時に撮影された記録もあり、周辺で疥癬症が蔓延している可能性がある。ヒトと野生動物の距離が近い環境であり、感

染症の発症など異変については今後も注意深くモニタリングを続け、記録に残すことが必要と考える。

謝 辞

コウモリ類については大沢夕志氏、大沢啓子氏、ネズミ類については石井徹尚博士に助言いただいた。また、寄居町生活環境課、川の博物館職員諸氏、川の博物館ボランティア諸氏には調査協力および情報提供をいただいた。上記の方々には感謝を表す。

引用文献

- 阿部永(1994)カヤネズミ。日本の哺乳類。東海大学出版会, 東京, 98。
- 藤田宏之・石井克彦(2010)埼玉県立川の博物館周辺の両生類相。埼玉県立川の博物館紀要 10:1-4。
- 藤田宏之・石井克彦(2011)埼玉県立川の博物館周辺の爬虫類相。埼玉県立川の博物館紀要 11:1-4。
- 大沢夕志・石井克彦・大沢啓子・奥村みほ子・碓井徹・佐藤顕義(2012)埼玉県内におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬事例。埼玉県立自然の博物館研究報告 6:53-58。
- 斎藤貴(1981)寄居町の小哺乳類 モグラ・コウモリ・ネズミの仲間。寄居町史資料集寄居町の自然 動物編。寄居町教育委員会, 寄居, 13-20。
- 埼玉県(2008)埼玉県レッドデータブック 2008 動物編 哺乳類。埼玉県環境部みどり自然課, さいたま, 71-81。
- 清水古寿(1981)寄居町の哺乳類 大・中型けもの仲間。寄居町史資料集 寄居町の自然動物編。寄居町教育委員会, 寄居, 7-12。
- 寺尾好夫(2005)さいたま川の博物館周辺の植物。さいたま川の博物館紀要 5:17-26。